政策提言／松戸市の都市農業

松戸の農地を、次の世代へ

「耕作放棄地の再生」より、「これから荒れる農地を防ぐ」ことが急務です

⚠ いま起きている4つのこと

-31.7%
農地（経営耕地）が
15年で217ha減少

-26.9%
農家が244戸減少
（906→662戸）

68.8%
担い手の
60歳以上の割合

1人
6年間の新規参入者
（新規就農は計13人）

本当の問題は「これから」。農業者の42.9%が「10年内に耕作放棄地になる農地がある」と回答
いま荒れている遊休農地は3.7ha。再生よりも、発生を防ぐ政策が要る

82.9%
市民が「農業体験をしたい」
関心という資源はもうある

680万円/ha
耕地1haあたり産出額は
東葛飾地域で1位

▼　だから、担い手の「入口」を広げる　▼

✓ 市にできる5つの提案

提案1　いきなり独立ではなく「階段」をつくる

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
体験する	援農する	雇われて働く	独立・就農

提案2　変わった制度を伝える
下限面積は2023年に廃止。生産緑地も借りられる。農地バンクも始動。制度はある、届いていないだけ

提案3　学校給食を出口に
松戸えだまめ・矢切ねぎの実績あり。新規就農者に納入枠を確保すれば、初期の販路が読める

提案4　初期費用と摩擦を支える
抜根・整地・土壌改良の補助、土埃や雑草をめぐる近隣調整（年平均43件の相談）への橋渡し

提案5　目標に数字を置く
計画に新規就農者数の目標がない。測らないものは改善しない。年5人・うち新規参入2人を掲げる

税制（相続税・固定資産税）は国の課題。待つ間にも農地は減っていく

農地は一度宅地になれば、二度と戻らない

出典：松戸市「松戸市都市農業振興計画 中間見直し」（2025年8月）